

2016 日本肺高血圧・肺循環学会 第二回理事会 議事録

日時：平成 28 年 9 月 30 日（金曜）16:30~18:00

会場：京王プラザホテル

出席者：理事 15 名

出席理事：伊藤正明、江本憲昭、佐藤徹、下川宏明、瀧原圭子、中西宣文、福田恵一、松原広己、西村正治、谷口博之、桑名正隆、山田秀裕、土井庄三郎、渡邊裕司、巽浩一郎

欠席理事：伊藤浩、伊達洋至、荻野均、室原豊明、佐地勉、吉田俊治

報告事項、審議事項

1. 理事の選任

「理事の選任に関しては、総務委員会で推薦し総会で決定する。肺高血圧・肺循環領域における、臨床・研究業績を総じて判断する」としてある。しかし今年度、学術総会時には学会総会の開催は無理と判断し、継続審議とした。

理事自薦 1 名、他薦 1 名を頂いたが、「あり方委員会」の決定に従い、理事承認は得られなかった。本学会設立時の理事は、「あり方委員会」で決定しており、役員の任期が 2 年間であるという会則に則り、平成 30 年度（瀧原圭子会長）に終了する事業年度のうち、最終の理事会終結の時までとした。各領域のバランスを考慮して 21 名を選出、小児科は 1 名欠員とした、と定めてあることを、それまでは遵守することにした。理事再任に関しては、理事改選（再任あり）の年度に、65 歳未満が良いのではとの意見が出された。

2. 評議員の選任

理事の先生方に挙げて頂いた評議員候補者リストの先生方を評議員としてお認め頂いた。

平成 28 年 9 月の時点で、日本肺高血圧・肺循環学会会員となって頂いた会員は約 240 名である。

会費 3 年未納の場合には、役員の選任はしないこととした。

3. 八巻賞、学会奨励賞、YIA 選考委員会からの報告

第 1 回日本肺高血圧・肺循環学会、八巻賞選考委員会委員長：下川宏明先生より下記報告を頂いた。

平成 26 年に逝去された八巻先生を追悼記念する八巻賞を設け、1000 万の寄付をいただいた。これを別の定期預金として、賞金 50 万円 + トロフィーとした。19 年は賄える予定で、継続して学会賞としての選考を行いたい。今回の八巻賞の講演には奥様をご招待した。

9 月 30 日、選考委員会（西村正治先生、伊藤正明先生、佐藤徹先生、桑名正隆先生）を開催した。候補者は 3 名、片岡雅晴先生、坂尾誠一郎先生、中村一文先生であった。5 人の審査員で点数をつけ

審査を行った。僅差ではあったが、研究の独創性・将来性ということで千葉大学の坂尾誠一郎先生を八巻賞受賞者として選出した。55歳が上限であり、今回選考にもれた先生にも頑張ってもらいたい。坂尾誠一郎先生には、学術集会にて受賞講演をして頂くことにした。

八巻賞の選考委員長は、来年度は下川宏明先生に決定、委員の先生方を選んで頂くことにした。可能であれば、選考委員の先生方は毎年選任して頂くことが望ましいとした。

学会奨励賞選考委員会委員長：桑名正隆先生より、下記報告を頂いた。

平成 28 年度 日本肺高血圧・肺循環学会 学会奨励賞 受賞者候補（五十音順）

(1) 阿部 弘太郎 九州大学循環器内科

ヒト肺動脈性肺高血圧症の病理組織と血行動態を再現した世界初の疾患モデルの開発に関する研究、および閉塞性肺血管病変の進展・維持における血行動態ストレスの役割解明に関する研究

(2) 福井 重文 国立循環器病研究センター心臓血管内科部門・肺循環科

慢性血栓塞栓性肺高血圧症患者における右心機能および運動耐容能に対する、バルーン肺動脈形成術の直接効果とバルーン肺動脈形成術終了直後から導入する心臓リハビリテーションの補完的効果の証明

日本肺高血圧・肺循環学会 「学会奨励賞」 選考に関するご報告

2016年4月15日開催の日本肺高血圧・肺循環学会理事会で承認された学会奨励賞について、学会奨励賞選考委員として選出された以下5名による審査を行いましたのでご報告申し上げます。

学会奨励賞選考委員会

委員長：桑名 正隆（日本医科大学、膠原病内科）

委員： 谷口博之（公立陶生病院、呼吸器内科）

江本憲昭（神戸薬科大学、循環器内科）

荻野均（東京医科大学、外科）

土井庄三郎（東京医科歯科大学、小児科）

選考過程：

2016年5月末までに2名の候補者から応募があり、選考委員長が両者共に応募資格を満たすことを確認した。また、学会奨励賞候補者の中に選考委員の当該施設に所属する者はいなかった。あらかじめ委員全員で評価方法についてメールで協議し、第一段階としての評価シートを用いて各委員が独立して2名の候補者の評価を行い、それらの結果を委員長が取りまとめた上で、メール審議で最終判断することとした。6月半ばに学会事務局から各委員に候補者2名の応募書類が郵送され、6月30日を期限に第一段階の評価シートの提出を依頼した。7月11-19日の間に集計結果をもとに全委員でメール審議を行った。

学会奨励賞は将来の発展が期待される若手研究者に対して表彰するものである。日本肺高血圧・肺循環学会「学会奨励賞」選考に関する申し合わせに従って過去5年間の研究成果、研究論文等の業績、今後の肺高血圧症の領域のリーダーとなる資質を有する将来性を主たる評価対象とした。各委員からの2名に対する候補者の評価では、2名の候補者ともにきわめて優れた業績と将来性があり、甲乙がつけられないとの意見に集約された。候補者の専門領域がPAHの病態に関する基礎・臨床研究とCTEPHに対するBPAの臨床研究と大きく異なることも考慮し、委員全員の総意として阿部弘太郎、福井重文両名の受賞を強く推奨すべきとの判断に至った。

日本肺高血圧・肺循環学会「学会奨励賞」選考委員長
桑名 正隆（日本医科大学）

「学会奨励賞」選考規定に、1名という記載がないので、今回は甲乙付け難かったため、2名受賞ということにした。受賞講演は15分として、最大2名までを原則とする、とした。

「学会奨励賞」の選考委員長は毎年交代が望ましいとなった。異なる分野の先生に委員長をお願いするが良いのではという意見が出された。来年度は、公立陶生病院の谷口博之先生（呼吸器内科分野）を桑名正隆先生から御推挙頂き、承認された。

YIA 選考委員会委員長：佐藤徹会長からは、会期中に YIA セッションを設定して、委員の先生方での評価を行うことが報告された。抄録選考での候補者には YIA 賞受賞とする、当日発表の中で最優秀賞 1 名を選出するという方針が示された。第 1 回は、15 演題の応募があったが、その中から抄録で 7 名を選出したと報告された。

第 2 回日本肺高血圧・肺循環学会の際の YIA 選考委員会委員長は、西村正治会長に決定した。YIA 選考委員会の委員長は、各学術集会長にお願いすることとした。発表人数、表彰人数は今後の検討課題とした。

4. 功労会員の規定

学会の財政基盤とも関係するため（功労会員ご招待などになると財政的に厳しくなる可能性がある）、中西宣文先生にご考慮頂き、継続審議とした。

中西宣文先生から報告を頂いた。いろいろな学会の規定をみると、はっきりとした定義はない。内科学会は功労会員、名誉会員と別々にある。会費は無料が多い。この学会は財政的に厳しい面があり、会費についてどうするかが問題である。理事経験者の功労会員にはオブザーバーとして理事会に参加できるという条文をつけて、会費を徴収するのはどうかという意見が出された。

5. 学術集会長の選出

2019 年の学術集会会長に、浜松医科大学医学部 臨床薬理学講座教授 渡邊裕司先生を選出し、

渡邊裕司先生にご承諾を頂いた。

6. 学会レジストリー

下川宏明先生から、資料配布の上、日本肺循環学会が行ってきたレジストリーに関してご説明を頂いた。レジストリー検討 WG を作成して継続審議とした。

7. PH 認定施設

理事の先生方に原稿をお願いしたが、まだ 5 施設からしかデータを頂いていないが、JPCPHS の HP 患者さんへのバナーに掲載した。岡山大学、東北大学、岡山医療センター、日本医科大学、神戸大学の 5 施設情報を掲載している。まだ情報のご提出を頂いていない理事の先生方には、JPCPHS HP の既掲載をご覧頂き、提出をお願いしたい。

8. 学会運営に関して

医学教育事業費、学会員からの会費、日本肺高血圧学会からの繰り越し金により、学会を立ち上げた。医学教育事業として、学術集会での教育講演のストリーミング配信、e-learning 形式での配信を予定している。

9. CTEPH に対する BPA 機材の厚労省への申請

カネカメディックスの KUSABI 保険適用申請を学会から嘆願書を提出することにした。

10. 2017 年度 学術集会

西村正治会長よりご説明を頂いた。学会テーマは日本らしさの発見、学際的統合そして発信として考えている。日本らしさを発信するセッションを用意したいと考えている。

2017 年 6 月 2 日（金曜）～3 日（土曜）開催場所：ホテルさっぽろ芸文館

会長：西村 正治（北海道大学大学院医学研究科 呼吸器内科学分野）

副会長：渥美 達也（北海道大学大学院医学研究科 免疫、代謝内科学分野）、

長谷部 直幸（旭川医科大学 循環・呼吸・神経病態内科学分野）

事務局：辻野一三（北海道大学大学院医学研究科 呼吸器内科学分野）

プログラム委員：

青山 晃博（京都大学医学部附属病院 呼吸器外科）

阿部 弘太郎（九州大学 医学系学府 臓器機能医学専攻）

石田 敬一（千葉大学大学院医学研究院 心臓血管外科学）

大岡 智学（北海道大学大学院医学研究科 循環器外科）

- 大郷 剛 (国立循環器病研究センター 肺循環科)
- 小川 愛子 (国立病院機構岡山医療センター 臨床検査科)
- 荻野 均 (東京医科大学医学科 心臓血管外科学)
- 長内 忍 (旭川医科大学 内科学講座 循環・呼吸・神経病態内科学分野)
- 片岡 雅晴 (慶応義塾大学医学部 循環器内科)
- 川口 鎮司 (東京女子医科大学 膠原病リウマチ痛風センター)
- 坂尾 誠一郎 (千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学講座)
- 坂田 泰史 (大阪大学大学院医学研究科 循環器内科学)
- 佐藤 公雄 (東北大学大学院 循環器内科学)
- 杉村 宏一郎 (東北大学大学院 循環器内科学)
- 谷口 博之 (公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科)
- 田村 雄一 (国際医療福祉大学三田病院 心臓血管センター肺高血圧症センター)
- 辻野 一三 (北海道大学病院 内科 I (第一内科))
- 土井 庄三郎 (東京医科歯科大学 小児科 小児・周産期地域医療学講座)
- 橋本 暁佳 (札幌医科大学 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座)
- 波多野 将 (東京大学医学部附属病院 循環器内科 重症心不全治療開発講座)
- 深谷 修作 (藤田保健衛生大学 リウマチ・感染症内科学講座)
- 福島 裕之 (慶応義塾大学医学部 周産期・小児医療センター心臓病総合治療チーム)
- 福本 義弘 (久留米大学 心臓・血管内科)
- 星川 康 (藤田保健衛生大学医学部 呼吸器外科)
- 堀之内 孝弘 (北海道大学 医学研究科 医学専攻 薬理学講座)
- 松岡 伸 (聖マリアンナ医科大学 医学部 放射線医学)
- 保田 晋介 (北海道大学大学院医学研究科 免疫・代謝内科学講座)
- 山田 典一 (三重大学大学院医学系研究科 循環器・腎臓内科学)

11. 2018 年度 学術集会

瀧原圭子会長よりご説明頂いた。

平成 30 年 6 月 22~23 日、於：大阪国際会議場

6月の第4週の金・土曜日とした。大阪国際会議場、他に場所がとれなかったため、日程はこれで固定した。会場の数は一つをメイン会場として、他は会議場とする予定。副会長は現在選考中である由の報告を頂いた。

12. 広報委員会の設置、患者会との連携、学会ガイドライン

広報委員会を設置して、若手の先生方が活躍できる場を提供することが重要との意見が出された。
肺高血圧症関係のガイドラインを学会から発刊することが妥当であることが認められた。
患者会との連携をどうするか、学術集会時の患者会開催などに関して、佐藤徹先生と相談することにした。

JPCPHS 理事長

千葉大学医学部 呼吸器内科

巽 浩一郎